

狛江市生成AI利活用ガイドライン

ver.3.00版
令和8年9月
情報政策課作成

はじめに

このガイドラインは、狛江市で新たに導入する生成AI「QommonsAI」及び既存の文章生成AI「公務員AIマサルくん」の利活用のための指針です。

これらのツールが活用する大規模言語モデル(LLM)をはじめとする生成AI技術は、職員の業務のあり方を大きく変革する可能性を秘めている一方、様々なリスクも指摘されています。業務での活用にあたり期待する効果を得るためには、その特性をよく理解し、正しく利用することが重要です。

東京都では令和5年4月に検討プロジェクトチームを設置し、ガイドラインを取りまとめて、生成AIを共通デジタルツールとして全局に導入する取り組みを進めました。令和7年7月にはこれまでの知見を踏まえ「東京都AI戦略」を策定し、行政サービスの高度化や効率化を目指す新たな方針を示しています。

狛江市においても令和5年7月から文章生成AIの試用・評価を開始し、東京都のガイドラインを参考に独自のガイドラインを策定して全庁的な活用を進めてきました。今回、「東京都AI戦略」も参考に新たなAIツールの導入に合わせてガイドラインを改訂し、生成AIの利活用を推進していきます。

生成AIを正しく使いこなし、行政サービスの質を高め、効率化を向上させるためにも、本ガイドラインをしっかりと読み、理解していただきますようお願いいたします。



文章生成AIについて



ていうか、そもそも
文章生成AIって何なの
正直難しいこととか
よく分からんのだけど…

文章生成AIとは

生成AIとは、深層学習や機械学習の手法により、AIが大量のデータを学習することによって、それを基に人が創作したかのような文章・画像・音楽・動画などのデジタルコンテンツを自動で生成する技術です。

文章生成AIでは、言語や文脈を理解し、次につながる文章の予測や推測をすることで文章の生成ができるようになっています。

技術的には、大量のテキストデータを学習し、入力されたプロンプト(指示・質問 ※詳しくはスライド46以降参照)に続く次のトークン(単語や語句の断片などの処理単位)の確率分布を計算して、1語ずつ文章を積み上げていくものです。

例えば「今日の天気は」という入力に対して「晴れ」「良い」「曇り」など複数の候補に確率が割り当てられ、その中から選んで文章を生成します。そのため、同じ入力でも毎回少し異なる回答が返ってくることがあります。

前後の文脈等を判断して生成することから、文法的に整った文章が生成されますが、文章としての体裁は整っていても、必ずしも内容が正確であるとは限らないので注意が必要です。

文章生成AIの特徴とは

文章生成AIは、AIに対して指示や質問などの入力「プロンプト」を与えることで、文章を生成できることから、人間の業務・作業をサポートするツールとしての活用が期待されています。

これまでは、様々なデータを基にしたAIによる予測等については特別な環境が無ければ実施できず、その結果の解釈や活用は別途人間が行う必要がありましたが、近年のデジタル技術の進展により、AIがより身近に、簡単に活用できるようになっています。

また、その方法も入力した「プロンプト」に対してAIが結果を返すだけでなく、対話形式で応答することができ、より直感的な利用方法が注目を集めています。



なんだ
良いことづくめじゃん
バンバン使おうぜ

文章生成AIのリスク

文章生成AIは便利である反面、

- ・プロンプト入力時における内部情報の漏えい
 - ・質問に対して事実に基づかない回答を生成するハルシネーションの発生
 - ・著作権・商標権等の直接的または潜在的な権利侵害
- など、様々な問題が指摘されています。

なお、ハルシネーションとは、AIが「正しい情報を参照・確認している」のではなく、「確率的に自然な文章を生成している」という仕組み上、事実に基づかない情報をもっともらしい文体で生成してしまう現象です。近年のモデルでは精度が向上していますが完全には解消されていないため、文章生成AIが生成した回答については、そのまま使用せず、その根拠や裏付けを自ら確認することが重要です。

また、AIが生成した文章に著作権等の権利侵害が発生する場合があります。AIの学習データに著作物が含まれている可能性もあるため、行政分野での活用にあたっては、こうしたリスクを十分に理解し対応することが必要です。

いや、そんな単純な話ではないですよ？



画像生成AIについて



ていうか、イラストとかの
作成に画像生成AIが便利
というのも聞いたんだけど…

画像生成AIとは

画像生成AIは、大量の画像と言葉の関係性を理解し、特定の言葉に対して、特定の形や色、構図が結びつく確率を計算することで、指示された内容に沿った画像を予測・生成します。

例えば「公園で走る犬」という指示について、一般的には芝生や木々を背景に犬が走っている姿が描かれる確率が高いと判断して画像を生成します。

指示の意図等を判断して生成することから、視覚的に自然な画像が生成されますが、プロンプトによっては既存の著作物を模倣したものになる場合や、画像としての体裁は整っていても、必ずしもそのまま利用できるとは限らないので、注意が必要です。

画像生成AIの特徴とは

画像生成AIは、AIに対して指示や質問などの入力「プロンプト」を与えることで、専門的なソフトや環境が無くても目的に合った画像を生成できることから、広報やデザインなどの業務・作業をサポートするツールとしての活用が期待されています。

また、生成された画像に対して「もっと明るくして」など追加の指示を与える対話形式での調整も可能で、生成画像の精度も向上していることから、新たなAI活用方法として注目を集めています。



なんだ
こいつも良いことづくめじゃん
バンバン画像を作成しようぜ

画像生成AIのリスク

画像生成AIは便利である反面、

- ・虚偽の画像や、構造が不自然な画像を生成するリスク
- ・既存の著作物、商標、キャラクター、実在の人物等に類似した画像を生成するリスク
- ・その結果として、著作権、商標権、肖像権等の権利を侵害するおそれ

など、様々な問題が指摘されています。利用に当たっては、画像の内容及び権利関係の両面から以下のポイントを十分に確認することが必要です。

- ☑手指、顔、身体、背景、文字等に不自然な点がないか
- ☑既存の著作物や実在の人物等に類似していないか
- ☑権利侵害のおそれがないか

また、生成された画像については、法的リスクを確認の上で利用し、既存の著作物等との類似性がある場合や、権利侵害のおそれを否定できない場合、その他、問題があると認められる場合には、利用しないことを原則とします。

さらに、画像生成AIの学習データには、著作物や個人の写真等が含まれている可能性があることも踏まえ、行政分野での活用に当たっては、住民への説明責任や信頼確保の観点からも、現時点では対外的なものへの使用は控え、当該画像がAIにより生成されたものである旨を明示した上で、庁内資料のみ使用を許可するものとします。

いや、画像生成AIの方が
やらかした時に大変なこと
になりますよ…



生成AIの活用方法について

生成AIの活用方法について
理解しましょう。



東京都AI導入・活用ガイドラインについて

東京都は令和7年7月に「東京都AI戦略」を策定し、AIを都政の構造改革の強力な推進力となる中核技術として位置付け、「都民サービスの質向上」と「業務の生産性向上」を目指すとしています。

また、令和8年3月には実践的な指針として「東京都AI導入・活用ガイドライン」を定めています。

「東京都AI戦略」では

- ①都民の利便性向上・QOL向上の徹底
 - ②政策実現の手段としてのAI利活用
 - ③人間中心のAI利活用
 - ④リスクへの適切な対応
 - ⑤オープンイノベーションの推進
- を基本方針として定めています。

東京都 AI導入・活用ガイドライン

令和8年（2026年）3月 東京都デジタルサービス局



「東京都AI導入・活用ガイドライン」

東京都AI導入・活用ガイドラインについて

(参考) 都政におけるAI利活用の考え方

「東京都AI戦略」では、都庁の各部門がAIを積極的かつ効果的に導入・利活用できるよう、3つの「業務領域」と5つの「AI利活用の分類」、利活用に当たって留意すべき事項等を踏まえ、「青」「黄」「赤」の3段階で都政におけるAI利活用推進に当たっての考え方をまとめた

業務領域			
AI 利活用 の分類	都民サービス	都民サービス関連業務	職員内部業務
	利用主体が都民/事業者であるサービス	利用主体が職員で、業務の最終的な目的が都民/事業者へのサービス提供となるもの	利用主体が職員で、都民サービスに直接影響しないもの
	1 情報提供・検索	1 定型業務補助	1 情報検索・定型業務補助
	2 行動支援	2 データ分析	2 文書作成支援
	3 パーソナライズド支援	3 判断支援	3 専門知識助言・企画提案支援
	4 予測・最適化	4 業務の予測・最適化	4 予測・高度な判断支援
5 自律的判断・実行	5 自律的な業務遂行	5 自律的判断・実行	
利用主体	都民・事業者		職員
主な効果	都民サービスの質向上		業務の生産性向上

(凡例)

AI利活用推進に当たっての考え方

青 比較的风险が低く積極的に利活用

黄 リスクに十分配慮した上で積極的に利活用

赤 今後の技術動向や法制度の整備状況等を注視

主な留意事項

透 透明性

公 公平性

安 安全性

プ プライバシー

ア アカウンタビリティ

(凡例)
AI利活用推進に当たっての考え方

- 青 比較的风险が低く積極的に利活用
- 黄 リスクに十分配慮した上で積極的に利活用
- 赤 今後の技術動向や法制度の整備状況等を注視

主な留意事項

- 透 透明性
- 公 公平性
- 安 安全性
- プ プライバシー
- ア アカウンタビリティ

さらに、3つの業務領域について、5つのAI利活用の分類を整理し、「青・黄・赤」の3段階で都政におけるAI利活用の考え方を整理しています。

また、透明性、公平性、安全性、プライバシー、アカウンタビリティ、セキュリティを6つの留意事項として定め、中でも「セキュリティ」については当然に留意する必要があるものと位置付けています。

「東京都AI導入・活用ガイドライン」

狛江市のAI利活用における基本方針

1. AIの利活用による「市民の生活の質（QOL）」の向上
～AIの効果を市民の暮らしの豊かさへ～
2. スモールスタートで横展開型のAI利活用
～小さく始めて、市全体に広げる～
3. 「市民の目線」に立ち、地域のつながりを育むAI活用
～AIを、まちの人と人をつなぐ力に変える～
4. 「自分ごと」として取り組むAI人材の育成
～AIを使いこなす職員が、まちを変える～
5. AIリスクへの適切な対応と市民からの信頼確保
～リスクを知り、市民に信頼されるAI利活用を～



1. AIの利活用による「市民の生活の質（QOL）」の向上

◎AIの効果を市民の暮らしの豊かさへ

狛江市DX戦略2.0では、庁内のDX・行政サービスのDX・地域社会のDXの3つの柱を通じて、行政サービスの質を向上させることによって、更なる市民のQOL（生活の質）の向上を目指しています。

AIの導入・利活用においても、この考え方を基本に据え、「AIを活用することで、市民の暮らしはどう豊かになるか」を常に問い続けることを基本姿勢とし、業務効率化の先にある市民のQOLの向上を最終的な目標として位置付けます。

2. スモールスタートで横展開型のAI利活用

◎小さく始めて、市全体に広げる

狛江市DX戦略2.0では、新たな挑戦をスモールスタートではじめ、市役所全体に波及し、取組を市内外へ横展開していくことを、DX人材像の一つとして掲げています。

AIの導入・利活用においても同様に、一部の業務・部署での試行から始め、効果を確認しながら全庁に展開するという段階的なアプローチを基本とします。

小規模自治体だからこそ、全庁への横展開のスピードが速く、職員同士の情報共有もしやすいという強みを最大限に活かします。

3. 「市民の目線」に立ち、地域のつながりを育むAI活用

◎AIを、まちの人と人をつなぐ力に変える

狛江市DX戦略2.0では、「デジタルの力で、人にやさしいまちの実現」というミッションのもと、「庁内のDX」、「行政サービスのDX」、「地域社会のDX」の3つのビジョンを掲げています。

このビジョンをAIの導入・利活用にも反映させ、「AIは手段であり、目的は市民の目線に立った行政サービスの変革と地域のつながりの強化」であることを常に意識します。

デジタルやモバイルの活用で地域のつながりを強化し、地域課題を解決しながら暮らしやすいまちづくりを進める観点からも、AIの活用について検証していきます。

4. 「自分ごと」として取り組むAI人材の育成

◎AIを使いこなす職員が、まちを変える

狛江市DX戦略2.0では、すべての職員が「他人ごと」ではなく「自分ごと」として捉え、行政課題を先送りせずにデジタルやデジタル技術の活用を前提に今すべきことを行い、業務や行政サービスの変革に挑戦することを目指しています。

AIの導入・利活用も同様に、職員一人ひとりが「自分ごと」として捉え、AIを利活用する上でのリテラシー及びスキルを身に付け、AI技術についての知識・技能を適切に業務で活用する能力を養います。

5. AIリスクへの適切な対応と市民からの信頼確保

◎リスクを知り、市民に信頼されるAI利活用を

AIの導入・利活用には多くのメリットがある一方、その特性に起因するリスクも存在します。AIの利活用は、市民をはじめ多くの関係者の信頼と共感を得るという観点から、特に「透明性」と「公平性」を常に留意しながら進めていくことが求められます。

狛江市においても、東京都AI導入・活用ガイドラインと同様の考え方にに基づき、透明性・公平性・安全性・プライバシー・セキュリティ・アカウントビリティの6つの留意事項を全職員が理解し、業務の性質に応じて適切に対応することを方針とします。

技術の進化を見据えた活用の考え方



最近、新しいAIツールがどんどん出てきてますよね。
これって、全部試さないといけないんですかね…？

そんなことはないですよ。目先の新しさに飛びつくのではなく、今の業務に本当に役立つかを考えることが大切です。



でも、使わないでいたら乗り遅れそうで…。

それも正しい感覚です。生成AIの技術は日々進化していて、今日できないことが明日できるようになることもあります。
だから「待ちすぎ」も「飛びつきすぎ」も、どちらもよくないんです。



技術の進化を見据えた活用の考え方



なるほど…
けど、どうやって判断すればいいんですか？

まず、リスクが低くて効果が確認しやすい業務から小さく試すこと。
そして、今は精度や安全性が不十分でも将来有望な業務は、技術の進化を待って適切なタイミングで導入するという考え方を持つことです。



技術の進化を見据えた活用の考え方



なるほど。新しいからって飛びつかず、でも進化から目を離さないってことですね。

そうです！「使わない」も「すぐ使う」も、どちらも手段が目的になってしまっているのので、常に業務改善(BPR)の視点でAIとどの様に付き合うかが大切です。



よし、今度マニュアルを作成する予定があるので、まずはそこから試してみます！

うまくいったら部署内で共有してくださいね。



技術の進化を見据えた活用の考え方

生成AIの技術は日々急速に進化しており、特に大規模言語モデルの進化は目覚ましく、様々な場面において今日できないことが明日できるようになる、その様なスピード感で技術革新が続いています。

このような状況の中で生成AIの導入・活用を考える際に職員として大切にしたい考え方が2つあります。

- ① 目先の新しさに飛びつかず、「今の業務」に役立つかを考える
- ② 技術の進化を「待ちすぎず」、小さく試しながら見極める

技術の進化を見据えた活用の考え方

① 目先の新しさに飛びつかず、「今の業務」に役立つかを考える

新しいAIツールや機能が次々と登場しますが、「新しい＝すぐに使うべき」ではありません。

現時点で扱うデータ等が安全に管理できること、単純に業務フローの一部に置き換えるのではなく、導入によって業務改善（BPR）につながるかどうかを判断基準にしましょう。

◎現状の環境で活用しやすい業務の例

- ・ 定型文・案内文のたたき台作成
- ・ 企画・政策立案の補助
- ・ 会議の要旨・議事録の要約
- ・ 問い合わせ回答案の作成
- ・ 資料の翻訳・校正

技術の進化を見据えた活用の考え方

② 技術の進化を「待ちすぎず」、小さく試しながら見極める

一方で、技術の進化をただ待つだけでは、生成AIの活用の機会を逃すことにもなります。リスクの低い業務から小さく試し、効果を確認しながら段階的に広げていく姿勢が重要です。

また、他自治体の先進事例や民間の動向など、様々な情報源から最新の技術動向を収集し、将来的な活用に向けて知見を積み重ねていくことも重要です。

◎慎重に検討・段階的に導入を進めたい業務の例

- ・ AIチャットボットによる問い合わせの一次対応
(FAQ整備・運用ルール・誤回答対応の仕組みが必要)
- ・ 複雑な申請書類の自動審査支援
(法的根拠・公平性の担保が必要)
- ・ 音声・画像を活用したマルチモーダルな市民サービス
(個人情報保護・精度検証が必要)

技術の進化を見据えた活用の考え方

判断軸	考え方
積極的に活用する	利用に当たってリスクが低く、効果測定しやすい内部業務
慎重に見極める	市民の権利義務に直接影響する業務や個人情報を含む業務
段階的に導入する	技術・運用体制の整備が必要だが、実用化が進んでおり導入を検討できる業務
技術進化を待つ	現時点では生成AIの技術的に精度・安全性が不十分だが、将来的に有望な業務

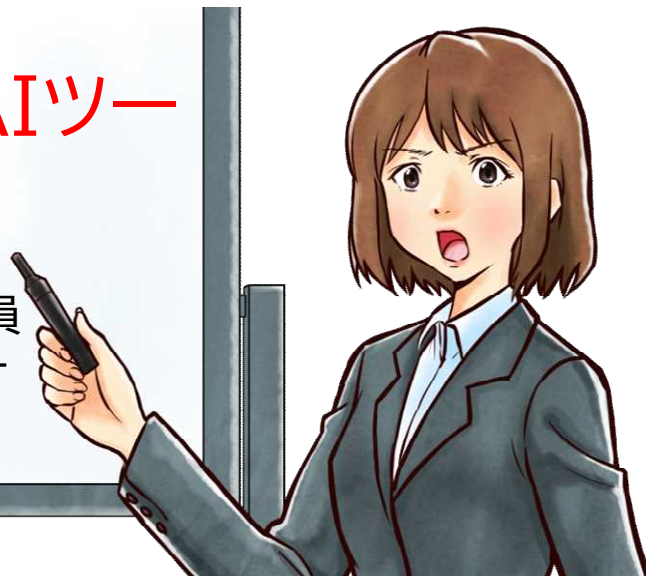
生成AI利用上の注意

生成AIの利用にあたっては、安全な利用環境の整備に加え、職員の皆さん自身がリスクを理解し、ルールを守って利用することが重要です。

まずは、次の点を必ず遵守するようにしてください。

安全性が確保された庁内の生成AIツールを利用すること

粕江市情報セキュリティポリシーでは、業務において定められたサービス・ツール等を利用することとなっており、職員の私的端末の業務利用についてはテレワークやチャットツールの使用など一部を除き、原則禁止しています。



利用に際して守るべき4つのルール

①個人情報等、機密性の高い情報は入力しないこと

②著作権等の権利侵害が生じないように十分に確認すること

③生成AIが生成した回答の根拠や裏付けを必ず自ら確認すること

④生成AIの回答を資料等にそのまま使用する場合は、「生成AIにて作成」といった旨を明記すること

個人情報等、機密性の高い情報は入力しない

生成AI自体は外部サービスに該当し、セキュリティ対策はサービス提供者に依存することから、機密情報や未公開情報を入力すると、万が一の場合、情報漏えいにつながるリスクが残ります。

特に職務上知り得た個人情報や、情報セキュリティポリシーで規定している自治体機密性3に該当するような情報を入力してはいけません。



いや、言われなくたって
こんなの当たり前じゃん

機密性による情報資産の分類

分類	分類基準
自治体機密性3A	行政事務で取り扱う情報資産のうち、「行政文書の管理に関するガイドライン」(平成23年4月1日内閣総理大臣決定)に定める秘密文書に相当する文書
自治体機密性3B	行政事務で取り扱う情報資産のうち、漏えい等が生じた際に、個人の権利利益の侵害の度合いが大きく、事務又は業務の規模や性質上、取扱いに非常に留意すべき情報資産
自治体機密性3C	行政事務で取り扱う情報資産のうち、自治体機密性3B以上に相当する機密性は要しないが、基本的に公表することを前提としていないもので、業務の規模や性質上、取扱いに留意すべき情報資産
自治体機密性2	行政事務で取り扱う情報資産のうち、自治体機密性3に相当する機密性は要しないが、直ちに一般に公表することを前提としていない情報資産
自治体機密性1	自治体機密性2又は自治体機密性3の情報資産以外の情報資産

著作権等保護のための確認を十分すること

単に他人の既存著作物、作家名、作品の名称を入力するだけの行為は、必ずしも直ちに著作権(著作権、特許権、個別の契約上の権利関係を含む)の侵害に該当するとは限りません。

ただし、生成されたデータが、プロンプトに入力したデータや既存の著作物と同一・類似している場合は、当該生成物の利用が当該著作物の著作権侵害になる可能性もあります。

また、生成AIが学習をする過程で既存の著作物等のデータが紛れ込み、著作権等を侵害をする可能性も無いとは言い切れないことから、生成されたデータについては、そうした権利関係を侵害していないか注意が必要です。

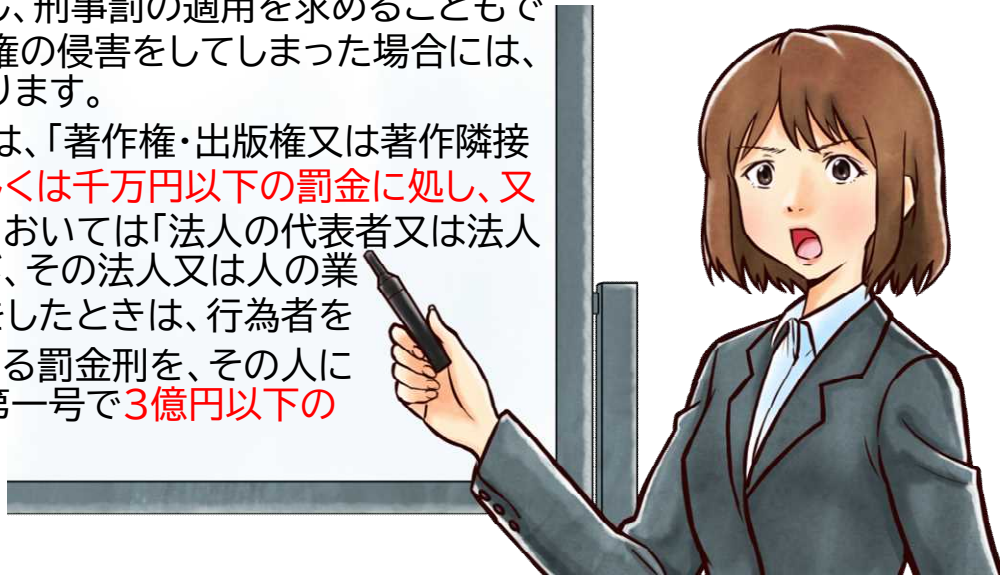
特に生成物を配信・公開等する場合には、生成物が既存著作物に類似しないかの調査を行うようにしてください。

著作権等保護のための確認を十分すること

著作権の詳細については、政策室作成の「**著作権等の取扱いに係る研修会**」資料を参考にしてください。

特許庁HPの「著作権侵害の救済手続」では、「著作権侵害行為に対しては、裁判所での**民事手続による救済として**、侵害行為の差止めを求めること、損害賠償を請求すること、不当利得の返還を請求すること、信用回復のための措置等を求めることが可能です。また、刑事事件として告訴し、刑事罰の適用を求めることもできます」と説明されています。裏を返せば著作権の侵害をしてしまった場合には、これら全てへの対応が必要になる可能性があります。

なお、**刑事罰**について、著作権法第119条では、「著作権・出版権又は著作隣接権を侵害した者(略)は、**十年以下の拘禁刑若しくは千万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。**」としています。第124条においては「法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従事者が、その法人又は人の業務に関し、次の各号に掲げる規定の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人に対して当該各号に定める罰金刑を、その人に対して各本条の罰金刑を科する」としており、第一号で**3億円以下の罰金刑**としています。



生成された回答の根拠や裏付けを必ず確認

文書生成AIが生成した回答は表現・言い回しが自然であるため、正しいと感じてしまいます。しかし、最新の情報を反映していなかったり、偏った価値観、アンコンシャスバイアス(自分自身は気づいていないものの見方や捉え方のゆがみや偏り)等が反映されてしまうこともあるなど、必ずしもその内容が「正確」とは限りません。

また、生成AIが事実と異なることをもっともらしく回答する、ハルシネーションが発生することもあります。

画像生成AIが生成した画像についても同様になります。特に既視感を覚える画像については、他者の権利関係を侵害していないか確認が必要です。

生成AIを正しく活用するためにも、回答や製作物について、提示された内容を鵜呑みにするのではなく、他のサイト等での事実確認や、必要に応じて複数の職員でのチェック等を行うなど、内容の妥当性を十分に検討するようにしてください。



AIのこと信じてたのに
平気で嘘つくやつなのかよ…

いや、だから
注意して上手に使ってください
という話ですよ？



生成物や要約等を資料等に活用する際は、その旨を明記

内容を確認した後、生成AIが作成した生成物を対外的にそのまま使用する場合は、「生成AIにより作成」と記載することで、生成されたものがAIによるものか人間によるものかを読み手に伝えることができます。

所謂ニュースサイトではAIによる記事やコメントの要約をした場合、「AIによる要約」といった表示をしていますが、その様な使用イメージとなります。

なお、表示をしたことによって、権利関係の侵害が許容されるわけではないので、その使用には注意が必要です。

生成AIで作成したものを資料等に使用する場合には、その生成した内容が正しく、他者の権利関係を侵害していないことを必ず職員が確認した上で、生成AIにおいて作成・要約した等の説明を明記してください。



よし…
作成したものをコピペして
「生成AIにより作成」と



それを記載すれば無条件に
使える訳ではないですよ。
ちゃんと内容とか確認してます？

「公務員AIマサルくん」について



「公務員AIマサルくん」とやらを
使ってみるか…

「公務員AIマサルくん」について

LGWAN環境で利用できる文章生成AIです。
利用者の履歴や過去の質問等の履歴は持たない仕様となっていますのでご注意ください。



マサルくんのメニュー画面について

UCHIDA				LGWAN 公務員AIマサルくん	
行政データ活用	発信業務	文章業務	計画策定		
調査業務 	メール作成 	文章校正 	一般利用 		
議会答弁 	レポート 	字数調整 	事業計画 		
企画提案 	SNS 	文章翻訳 	条例規則 		
挨拶文 	広報支援 		IT仕様書 		

マサルくんのメニュー画面について

マサルくんには、各項目ごとにメニューが用意されています。

基本的にはプロンプトを追加しなくとも、メニューの内容に沿った形で、回答が生成される仕組みとなっています。

なお、対話をしながら回答を導き出したい場合はメニューの「一般利用」を利用してください。



マサルくんのメニュー画面について



マサルくん利用上の注意事項

「公務員AIマサルくん」は利用分野ごとのメニューになっていることから、例えば「メール作成」のメニューでは、前提としてメールを作成することをプロンプトに含まなくても良い形となっており、必要事項を直接入力する形となっています。

また、その仕様上、「一般利用」のメニュー以外では対話によって回答をブラッシュアップすることはできないことから、必要に応じて詳細な前提情報をプロンプトとして入力してください。



「QommonsAI」について



さて、新たな生成AIツールである
「QommonsAI」とやらも
気になるところだが…

「QommonsAI」について

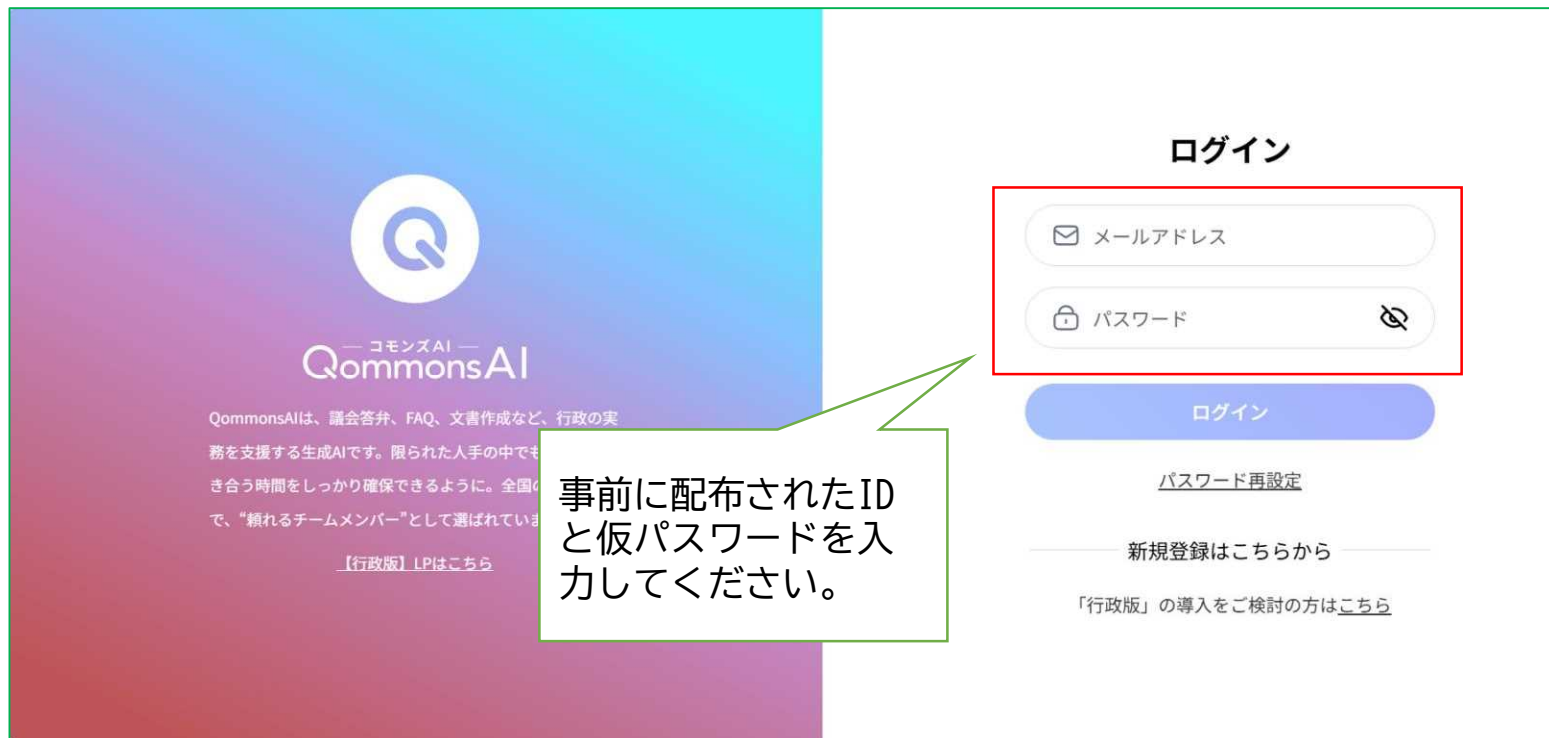
「QommonsAI」は、Polimill株式会社が提供する行政向け生成AIツールです。

LGWAN環境でも利用でき、テキストによる対話型の作業が可能です。

ただし、参照先のリンクを開くためにはインターネット環境での利用が必要となります。



「QommonsAI」初回ログインについて



ログイン

メールアドレス

パスワード

ログイン

[パスワード再設定](#)

新規登録はこちらから

「行政版」の導入をご検討の方は[こちら](#)

事前に配布されたIDと仮パスワードを入力してください。

「QommonsAI」初回ログインについて



— コモンズAI —
QommonsAI

QommonsAIは、議会答弁、FAQ、文書作成など、行政の実務を支援する生成AIです。限られた人手の中でも、住民に向き合う時間をしっかり確保できるように。全国の自治体で、“頼れるチームメンバー”として選ばれています。

[【行政版】LPはこちら](#)

パスワード再設定のお願い

仮のパスワードのままではご利用いただけません。
セキュリティを確保するため、
新しいパスワードを設定してください。

新しいパスワード

パスワード再入力（確認用）

再設定

戻る

初回のみパスワード
設定画面となります。
使用するパスワード
を設定してください。

「QommonsAI」メニュー画面について



「QommonsAI」利用上の注意事項

「QommonsAI」で扱うデータ等については、国内にあるデータセンターで管理をしていますが、回答を導くLLMモデルについては、クラウドの特性から、国内リージョンと国外リージョンが存在します。

これはプロンプトを処理するLLMモデルが物理的にどこに存在しているかということで、法的管轄において国内法が適用されるか外国法が適用されるかの違いになります。

生成AIの利用に当たっては、基本的に国内リージョンのLLMを利用してください。

なお、公開しても差し支えのない自治体機密性1の内容については、国外リージョンの使用ができるものとします。



プロンプトについて



プロンプトって良く聞くんですけど
一体何なんですか？

プロンプトについて

プロンプトとは…

生成AIに対する指示のこと

例えば私があなたに仕事を頼むとき、書類を指さして「これやっ
といて」だけでは何も伝わりませんよね。

「〇〇という目的で、△△向けに、□□の形式で作ってほしい」と
目的や背景、どんな形で作って欲しいのかを具体的に伝えると、私
が期待していた通りの仕事をしてもらえると思います。

相手がAIでもまったく同じです。

難しく考える必要はなくて、「誰が・何のために・何を・どんな形
で」を意識するだけで、AIの回答もより良い形に変わります。



プロンプトの考え方

プロンプトとは、生成AIに対する指示・質問のことです。

人に対して指示を出す場合と同様に、AIにも漠然とした指示を出すだけでは思うような結果は返ってきません。

その質問の目的や条件、希望するアウトプットなどを明確に伝えることが、より良い回答を得るための基本です。

生成AIの登場当初は、プロンプトの書き方は一部の専門家のスキルとして注目されていましたが、現在ではすべての職員が身につけるべきAI活用のための基本的なスキルとして位置付けられています。

最初は、以下の4つの要素を意識してみましょう。

- ① 役割を伝える
「どのような立場としてAIが回答するのか」を伝える
- ② 背景・目的を伝える
「何のための作業か、誰に向けているものなのか」を伝える
- ③ 指示を具体化する
「何をしてほしいか」を明確に伝える
- ④ 出力形式を伝える
「どんな形で作成してほしいか」を指定する



①役割を伝える

◎質問者の立場を具体的にする

生成AIはあなたのことを知りません。

質問する人間がどのような立場・役割にあるかを明確にすることで、その立場に即した、より質の高い回答が得られます。

役割を追加するだけで、回答の「解像度」が大きく変わります。まず「自分が誰か」をAIに伝えることを習慣にしましょう。

「役割」を伝える

- ・あなたは狛江市役所の〇〇部門の職員です。
- ・〇〇という業務を担当しています。
- ・対象者は〇〇(例:高齢者・子育て世帯・市内事業者)です。

②背景・目的を伝える

◎背景や使用している単語の意味、目的を具体的に伝える

生成AIは全てを知っているわけではありません。

AIに背景として状況・文脈・固有の事情を伝えることで、一般論ではなく、その業務に即した回答が得られます。また、目的として何のために・誰のために・どう使うかをAIに伝えることで、用途に合った内容やトーン・深度の回答が得られます。目的が変わると、同じテーマでも回答の内容は大きく変わります。

「背景」はAIに状況を理解させるための情報、「目的」はAIに何のために作るかを理解させるための情報です。この2つはセットで伝えることで効果が最大化されます。

②背景・目的を伝える

◎背景や使用している単語の意味、目的を具体的に伝える

「背景」を伝える

- ・市では〇〇の分野に取り組んでおり、具体的には〇〇といった事業・活動を行っています。
- ・イベント「〇〇」は、市で〇年続く伝統的な催しであり、〇〇形式によって実施しています。
- ・市民向け説明会の際に〇〇で使うために。

「目的」を伝える

- ・〇〇課の職員向けの研修資料として使用します。
- ・〇〇の説明会の想定問答として使用します。
- ・市民向けの広報紙に掲載するため、わかりやすい表現にしてください。
- ・上司への説明用に、要点を簡潔にまとめてください。

③指示を具体化する

◎具体的に何をして欲しいのかを伝える

「〇〇について教えて」という漠然とした指示では、AIは何を重視して答えればよいか判断できません。

具体的に何をしてほしいのか、議論などの程度のレベルで答えてほしいのかを具体的に伝えることで、期待している内容に近い回答が得られます。

自分の代わりに「人に仕事をお願いする」感覚で考えてみましょう。

「これやっというて」ではなく「〇〇向けに、〇〇の形式で、〇〇を意識して作って」の方が期待通りの成果が返ってきます。

「具体的な指示」を伝える

- ・やさしい言葉で、専門用語を使わずに説明してください。
- ・〇〇の観点から整理してください。
- ・賛成意見と反対意見の両方を挙げてください。
- ・〇〇を前提として、注意点を挙げてください。

④出力する形式を指定する

◎どの様な形で回答をしてもらいたい指定する

AIに対して回答時にどのような形式で回答をしてほしいかをあらかじめ指定することで、さまざまなスタイルで回答してくれます。

「出力形式」を伝える

- ・〇〇文字以内で作成してください。
- ・箇条書きで〇個回答してください。
- ・表形式でまとめてください。
- ・〇〇(例:子ども・高齢者・外国人)にもわかる言葉で書いてください。

プロンプトの活用

- ① 役割を伝える
- ② 背景・目的を伝える
- ③ 指示を具体化する
- ④ 出力形式を伝える

このプロンプトの考え方を組み合わせることによってより良い回答が導き出せるようになります。

また、役割・背景・目的などは文章で詳細に伝えて、条件・制約・出力形式などは箇条書きで整理することで、AIにとって最も理解しやすい質問になります。



プロンプトの活用

一度で全ての答えを得ようとせず、質問を追加して回答内容をブラッシュアップしましょう

対話型生成AIでより良い回答を得るためには、得られた回答に対して質問を追加したり、プロンプトを組み合わせたりすることで、回答内容をブラッシュアップしていきましょう。

なお、対話型の生成AIは該当のチャットにおける過去のやり取りの内容を踏まえて回答が生成されるため、「〇〇については、別の視点で回答してください」、「反対の立場からはどのような意見がありますか」といった指示を追加することで、議論をさらに深めていくことができます。

また、議論の方向性が意図と異なると感じた場合は、新しいチャットを開始することで、文脈をリセットして改めて質問し直すことができます。同じチャット内で「忘れて」と指示しても、過去の文脈が残る場合があるため、完全にリセットしたい場合は新規チャットの利用を推奨します。

プロンプトの活用



良い回答を出そうとすると結構指示が難しいですね。

インターネットで「プロンプト集 行政」とか「プロンプト集 自治体」で検索すると、行政向けのプロンプト集を公開している自治体もあるので、それも参考にしてみてくださいね。



終わりに

折角の生成AI
使いこなしていきましょう



参考にしたガイドライン

- ・一般財団法人日本ディープラーニング協会「生成AIの利用ガイドライン(第1.1版)」
- ・総務省「自治体におけるAI活用・導入ガイドブック(導入手順編)(第4版)」
- ・東京都「AI導入・活用ガイドライン」
- ・東京都「生成AI利用の手引き」
- ・山形県南陽市「一発OK!!市民も使える！生成AI活用事例集(プロンプト集)」

画像提供

- ・アイキャッチャー(<https://ai-catcher.com/>)